

今年度の当研修会は日程の関係と参加者増員を目的とし、コラボ開催といたしました。テーマは日常の業務管理再考といたしまして、3施設からそれぞれ機器管理、安全管理、被ばく管理のご報告をいただき、1施設より医療被ばく低減施設認定施設取得にむけた取り組みをご紹介いただきました。機器管理についてご報告いただいた秋田労災病院、林部長からは過去に様々な要因で発生したX線装置の使用許可申請漏れに対して、グループ病院全体で取り組んでいる施設間での協力体制や管理簿や一覧表など再発防止策をご報告いただきました。北秋田市民病院、平川技師長からは自施設で行われている医療安全確保のために行われている取り組みについてご報告いただきました。安全管理は基本的かつ重要な管理であり、KYTやシステムによる注意喚起など大変参考になったと思われます。被ばく管理については県内唯一の医療被ばく低減認定施設である市立横手病院、郡山技師長よりご報告いただきました。限られた設備でいかに工夫して被ばくを低減し、管理していくために、技師が多くの汗をかき努力することが重要であると改めて感じました。今後認定施設取得を目指す施設には大変参考になったと思います。続けて市立秋田総合病院、工藤会員より医療被ばく低減認定取得に向けた取り組みについて、現在の状況や問題点を包み隠さずご紹介いただき、会場参加者でディスカッションを行いました。その中で、やはり一人では達成上可能な活動なので、スタッフ全員が同じ方向を向いて協力し進めることが大事であると感じ、会場も同じ雰囲気であったと思います。

休憩を挟んでベンダー3社より自社の新技術をご紹介いただきました。テラリコン社からは医用画像データフローマネージメントをご紹介いただき、シーメンス社とEIZO社からは最新の医療被ばく線量管理システムをご紹介いただきました。講演だけでなく、各社とも実機を展示していただき、参加者の皆様には休憩時間を利用して実際に触れていただき、皆様興味深くご覧いただきました。

最後に特別講演としてGE社、有田先生より最新の医療政策についてご講演いただきました。近い将来訪れる労働人口の減少と高齢者の増加、医療費の増加を見越した政府の戦略について、目指す医療は何かということをわかりやすくお話いただきました。専門性と分散ということ、医療を提供する側だけでなく受ける側も考える取り組みが行われているなど、取り巻く環境は目まぐるしく進んでいることを実感できました。常にアンテナを張り柔軟に対応できる心構えが必要だと感じました。

今回の研修会は内容盛りだくさんで欲張った感じではありましたが、参加した皆様の今後の活動のご参考になれば幸いです。

(文責:岩根)

